

### 「鼻骨骨折」

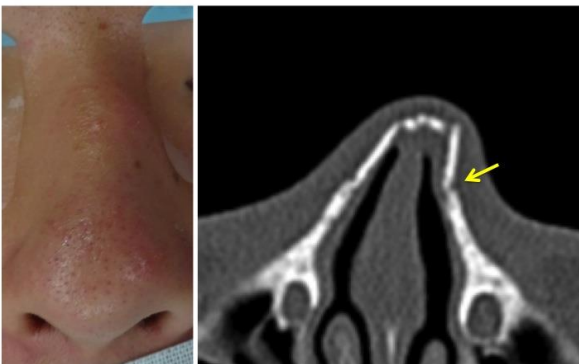
鼻骨骨折は、顔面外傷の中で元も多い骨折です。これは鼻が顔面の中央にあり突出していることが原因と考えられます。

**原因：**半分以上はスポーツが原因とされています。次に多いのは暴力（殴られた等）であり、転倒・転落、交通事故などがあげられます。スポーツの中で特に多いのは、野球、サッカー、バスケ、ラグビー、格闘技などです。

**症状：**多くは鼻出血を伴いますが、血が止まらないということは少ないです。最も問題になる症状は「変形」です。鼻は顔の中央にあり良く見る部位ですので「変形」は気になることが多いですが、「変形」が気にならなければ、治療は不要ということになります。鼻閉（鼻づまり）が生じることもあります。

**診断：**受傷直後には比較的容易に変形が確認できますが、数時間もすると腫れにより外観では骨折はわかりにくくなります。触ってみると骨折、変形がわかることもあります。

レントゲン検査は診断が不確実なことも少なくないようで、近年はCT検査が行われることが多くなっており、詳細な診断が可能となっています。



写真は鼻骨骨折にて左へ変形している症例。  
CT写真で骨折線（矢印）が確認されます。

**治療：**手術による整復を行います。しかし、「変形」が気にならない場合やコンタクトスポーツを継続するために再び受傷する可能性が高い場合などには、手術はあまりお勧めできません。

手術時期は受傷後早めがよいのですが、数日後に腫れがおさまった頃に決断して行うこともあります。その場合でも2週間以内がよいとされています。

受傷直後や軽症の場合には局所麻酔で行われることがあります。手術時の痛みは強いので、当院では全身麻酔で行っています。

手術では、鼻の中へ棒状の器具や挟み込むような器具を入れ、骨折して落ち込んだ鼻骨を持ち上げます。変形が矯正された後に鼻の中へガーゼを入れて中から支えます。また、鼻の外側にも固定具を接着させます。1週間ほどでガーゼと外固定を外します。

**スポーツ復帰、再発予防：**術後は再骨折しやすい状態ですので、1ヶ月間はぶつけないように注意してもらっています。早期に競技に復帰する場合には再受傷の防止のために補装具（フェイスガード）の装着が推奨されます。フェイスガードはワールドカップサッカーで宮本恒靖選手が装着しておりました。オーダーメイドで作成することが望ましいと思いますが、現在は市販されているものもあります（下記写真）。



佐々木亮（スポーツドクター・弘前大学耳鼻咽喉科学講座）